

1960-1

- ① カナダとアメリカの印象……………1
- ② 産業の拡大か国土の保全か……………4
- ③ 松川地熱地帯の物理探査……………12
- ④ 花粉と胞子の化石……………19

地質ニュース No. 65

表紙の写真

結晶片岩 四国路④

四国と言えはやはり結晶片岩であろう。清水構造帯を研究している学友鈴木君の薄片を借りて micro photography を試みるうちに面白いモチーフをつかんだ。これは砂岩片岩と黒色片岩の一断面  $S S_2$  を写したものである。それは初めて徳島の地に降り立った時のことだったと思う。お城の石垣も 公園の小僧もいろいろな結晶片岩の組合せであった。広島花崗岩のまんなかに育った私には 礎石も石垣も石とは花崗岩と思ひ込んでいた。四国の山村を歩きながらそんな幼少の頃を思い起したことを覚えている。

アリストフォート A-1 乾板 コレクター変液 3分 月光 V-3  
コントロール (1/5 万 大樹)



行程図

まえがき

私は TAOとECAFEの共催による アジア極東地域12カ国の地質および鉱山専門家視察団の一員として 34年8月14日羽田を出発し アメリカ・カナダ両国の地質調査事業と鉱山事情を 2カ月にわたって視察してまいりました。詳しい技術的報告は 追って発表する予定であります。とりあえず簡単にアメリカとカナダで受けた印象の 2・3 を述べましょう。

繁栄その極に達しているアメリカそして世界のホープカナダ。これがこのたび私が旅をした地質家としての最少言の印象です。

アメリカは資源が豊富 加うるに技術と学問のこんぜんとした みごとな駆使によって現在の繁栄を築きあげています。現在の低品位鉱の開発利用もアメリカなれ

# カナダと アメリカの印象

所長 兼子 勝

ばこそと考えます。あの様相を日本にもってきてもあてはまらないでしょう。土地は狭くて 人家は稠密 廃石の捨て場所もないようなわが国ですから 他の ECAFE の人たちは感心していたようですが 少なくとも日本から行った 森仙台通産局鉱山部長と私はそのままのみませんでした。とくに森さんは 一言 日本では適用せられないというようなことを 会議の席上発言されていた。いくらアーカンソー州レイノルド鉱山のアルミナが Silica 10% 以上のものであってもまた Open cut の場合 銅の品位が 0.8% 以下のものであってもあるいはカナダ Elliot lake 地帯のウラン鉱山が平均品位  $U_3O_8$  0.11% のものを採っていても 結局はその場所環境によるもの 要は日本には通じないということです。ただし彼等の科学的操作については 私たち日本



- ① サラワク カーク博士
- ② マラヤ アズグディン氏
- ③ インドネシア ヨハネス氏
- ④ フィリピン ビララザ氏
- ⑤ 森仙台通産局鉱山部長
- ⑥ ホンコン デービス教授
- ⑦ エカフェ リー博士
- ⑧ 兼子地質調査所長
- ⑨ イラン ミルアフザリ氏
- ⑩ 韓国 リー氏
- ⑪ マラヤ チュン氏
- ⑫ 台湾 ビック氏
- ⑬ タイ ジャバナフェット氏
- ⑭ セイロン シリマンネ氏
- ⑮ タイ カアオサイ氏
- ⑯ インド チャタルジー氏

東京羽田空港出発の視察団一行